

## ◎ 前回の計画素案に対する検討委員会及び教育委員の意見と事務局の考え方

No.	頁	意見	事務局の考え方
1	P3	「あなたが好き」に込めた思いの文章は、「違いを認め」ではなく、「自分と異なる他者を知り」などの方が良いのではないか。「認め」だと、少し上から目線のような印象を受ける。(岡本委員)	ご意見を踏まえ、「思いやりを大切に、自分と異なる他者を受け入れる心を持ち」に修正します。
2	P3	自己肯定感の解釈が誤って伝わらないよう、「目指す姿にある自己肯定は〇〇を指します」という解釈を併記することを提案する。(岡本委員)	「私が好き」に込めた思い(「自分らしく生きることを大切に～)に、自己肯定を含め、大切にしたいことを併記しています。その他、目指す教育の姿策定に当たって丁寧に説明すべきことは、「横須賀の目指す教育の姿」の策定に当たって(P4)に記載することで補いたいと思います。
3	P6	計画の体系について、特に方針1や2を見ると「私が好き あなたが好き」の順に対応するような並びになっているので、目指す教育の姿と方針・柱・施策の並び順に齟齬がないようにする必要はあると思う。(梨本委員)	目指す教育の姿は、全ての方針、施策をもって実現するという考えですので、見た目でも誤解が生じないように、ご意見を踏まえ、体系の見せ方を修正します。 なお、方針1と方針2は学校教育に関する内容であるため、方針の並びはこのままが適切だと考えています。(「横須賀の目指す教育の姿」の策定に当たって」参照(P4))
4	P6	計画の体系を見ると、「あなたが好き」が右横の方針1と合わず、「私が好き」も右横の方針2と合わない。 方針の順序はこのままで良いと思うので、「あなたが好き」が方針1、「私が好き」が方針2と連結し、「目指す教育の姿」が「方針」にそのまま結び付くのではないように(間を少し開けるとか、間に線を引くとか)すると、誤解が生じないと思う。(渡辺委員)	
5	P6	「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」の順への変更に伴い、方針1と方針2の順番を入れ替える必要はないか検討いただきたい。(「あなたが好き」と方針2、「私が好き」と方針1、「横須賀が好き」と方針3が対応付けられており、並びに整合性がなくなったため。)(教育委員・元木委員)	

6	P7	<p>「確かな学力」は国が平成 30 年に出したものであり、この間、「学びの転換」という言葉が常に言われている。実際に学校でもこれまでの一斉授業から子どもが主体的に学ぶためにはどうすれば良いかということをや日々模索している。「教え」から「学び」への転換がこれからは必要だと思う。そのような文言を具体的な方針として落とし込む必要があるのではないか。学校現場としてはこの「学び」を意識し、強調したいところである。(小番委員)</p>	<p>ご指摘の「学びの転換」は、学習者側の視点も重視した、2020 年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育の姿」を指していると思います。</p> <p>施策 1「主体的・対話的で深い学びの実現」にサブタイトルで「個別最適な学びと協働的学びの一体的充実」を付けたのは、まさにご指摘にあるようなこれからの学校教育に必要なことを強調するためです。</p> <p>柱名「確かな学力」は、「豊かな心」「健やかな体」と並んで「生きる力」の概念の一つであり変更による不整合、アンバランスが生じますので柱名は原案どおりといたします。</p>
7	P7	<p>「確かな学力」については、ペーパーテストだけではなく、色々な力を伸ばすことが必要という議論があったが、指標を見ると全国学力状況調査、質問紙調査の結果ばかりであり保護者や教員に「結局学力テストのスコアを気にしている」と思われるのではないかと。事業も旧来型のものが並んでいる。スコアで出てこないような、一人一人の個性、関心に応じた授業ができていないか、教員でないとわからない内容だが、結果指標でなく選考指標のようなもので、授業改善が推進できているかモニタリングしていくことも必要ではないか。(妹尾委員)</p>	<p>柱 1「確かな学力」では、ペーパーテストの結果だけでなく、「自分のことを大切に思うことができるか」「みんなで協力して課題を解決する場面がよくあるか」など、授業改善によって高めていくものも目標指標としています。</p> <p>また、教育振興基本計画では代表的なものを指標として取り上げていますが、教育振興基本計画に基づく個別計画として策定する「横須賀市学力向上推進プラン」ではさらに深掘りし、課題の探求に対する姿勢等の詳細な指標を設定し、ご指摘にあるようなペーパーテストの結果だけでない部分をモニタリングしていきます。</p>
8	P7	<p>指標が、学力状況調査に偏重しているのではないかと。この結果が良ければ確かな学力がつくのか。学校現場と市教委の乖離を感じる。(松浦委員)</p> <p>指標やデータをとるときに硬直化してしまう。もう少し多面的なものや生の意見が盛り込めないか可能な限り検討してほしい。(小林委員長)</p>	
9	P7	<p>確かな学力については家庭との連携、言語活動も含めてということだと思があるので、家庭や地域との連携など、グランドデザインが見えるような指標にしてほしい。(梨本委員)</p>	

10	P7	方針1の「自立心と主体性のある」を強調するために、柱1「確かな学力」の目標指標に「自ら知りたい、追及したいと思うことに対して、調べたり誰かに聞いたりしたことがあるか」等を追加してはどうか。(岡本委員)	同上
11	P7	柱1「確かな学力」の目標指標1の「みんなで協力し課題を解決する場面がよくあるか」の「課題」は何を指しているのか、「解決」は試みたが解決しなかった場合はイエスと回答できないのか、など回答者が迷うと感じた。「ナイストライ」でもイエスと回答できるのであれば、「みんなで協力し課題を解決しようとしたり、取り組んだりしたことはあるか」のような表現を提案する。(岡本委員)	ここでは「ナイストライ」もイエスに含める考え方ですが、課題が解決できたかどうかではなく、協力しあって取り組もうとしているかどうかの意識を問うていることが分かるように、「みんなで課題を解決する場面、協力しようとしているか」に修正します。
12	P7	「確かな学力」は、基礎からの積み上げがなければ上には積んでいかれない。市民、保護者、指導者、学力テスト対象者にも、分かりやすく目標にしやすい学力調査の正答率の指標は必要だと考える。(岡本委員)	—
13	P9	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との比較が令和3年度で見えますが、もう少しデータはないのでしょうか。1年度だけを分析して現状の傾向が分かるのでしょうか。(渡辺委員)	ご意見を踏まえ、令和元年度のデータも加えます。
14	P10 ～ P13	施策1の事業数が多すぎないか。教育指導課が担当する事業数が多いのも気になる。事業数が多すぎて手が回らず、各事業が消化不良を起こしてしまい、結果的に確かな学力を身に付けられなかった、深い学びが実現できなかったということにならないか。事業数が妥当かどうか検討いただきたい。(教育委員・元木委員)	いずれも重要な事業であり、妥当な事業数だと考えていますが、ご懸念いただいている状況に陥らないよう、毎年の点検・評価等を通じて効率性等の観点からも常に事業を見直し、「計画に位置付けたから」という理由だけで漫然と事業実施しないよう注意します。
15	P14	小中一貫教育について、資料を読むまで小中一貫(校舎も人間関係も一貫)と思い違いをしていた。思い違いをしやすい事業名なので「学びの連続性と一貫教育の推進」としてはどうか。(岡本委員)	本市では小中一貫教育の定義を「義務教育9年間を一体と捉え、発達の段階に応じて子どもの学びをつなぐ教育」とし、施設は別々でも、相互に連携等を図りながらその推進を図ることとしています。そのため、今後も引き続きこの事業名で取り組んでいきたいと

			考えていますが、ご指摘にあるような思い違いがないよう、本市としての「小中一貫教育」を定着させていきたいと考えています。
16	P25	施策6について、「現状と課題」「事業」の内容が普遍的な人権教育・道徳教育になっており、方針2「多様性を認め合う共生社会の担い手を育てます」に基づいて施策、事業が展開されているように見えない。方針2「多様性を認め合う共生社会の担い手を育てます」のもと、多様性を認め合うための人権教育・道徳教育を推進するような内容を追加することを検討いただきたい。また、施策名を「多様性を認め合う人権教育・道徳教育」としてはいかがか。(教育委員・元木委員)	人権教育・道徳教育は方針2に基づいて展開していくと見えてくるように、施策、事業の概要に、多様性を認め合うことの大切さに関する内容を明記します。
17	P32	不登校に加え、自殺が増えているが計画に出てこない。福祉などとの狭間になり悩ましいが大事にしていきたい。(妹尾委員) コロナの影響はこれから見えてくる。文言化は必要ではないか。(小林委員長)	本市では健康部が中心となり「横須賀市自殺対策計画」を策定し、自殺の要因となり得るさまざまな分野の施策、組織および関係者と密接に連携し、包括的な取り組みを推進しており、教育の分野においても、教職員の資質・能力の向上を図るほか、いじめや不登校の悩みを抱える子どもや保護者を支えるための相談窓口の充実等により児童生徒の命を守るための支援を行うこととしています。 ご意見をいただいた点については、このような本市全体での自殺対策に関する取り組み(横須賀市自殺対策計画の概要)を掲載することとします。(学力向上推進プラン等、他の個別計画の概要と併せて完成版に掲載)
18	P38	目標指標に施策11、12の状況が分かるような指標が必要だと思う。他部局の数値が必要ということなら、目標でなくとも現状の数値だけでも記載するといいいのではないか。(コミュニティセンター利用者数、学校施設開放利用件数、成果を生かせる講座数、講師登録者数など)(渡辺委員)	施策11については、素案の指標16、17、18が対応していると考えています。 施策12に関しては、ご意見を踏まえ、自らの学んだ成果を生かすことを希望する「Yokosuka まなび情報」に講師情報を登録した件数を指標19として追加します。
19	P40	事業60に「講座受講者アンケートなどを利用し」と記載されているが、この講座受講者に「(コミュニティセンターを含む)」	ご指摘ありがとうございます。ここでいう社会教育施設にはコミュニティセンターも含めていますが、事業60の概要は「広く利用

		と加え、現状と課題の文章に関連付けてはどうか。(渡辺委員)	者のご意見を聴く」という趣旨の文言ですので、あえて「コミュニティセンターを含む」とはせず、原案どおりといたします。
20	P43	指標 25「横須賀美術館企画展満足度」とあるが、企画展の観覧者は有料であり、自分で選んで来ている人たちである。指標 24「横須賀美術館企画展観覧者数」と似ている。教育委員会の所管から離れた後も教育機関ということであれば「教育普及事業の参加者の満足度」といった指標を入れていただけると良いのではないか。(梨本委員)	ご指摘を踏まえ、指標 26 として「教育普及事業（ワークショップや講演会）参加者の満足度 90.0%」を目標指標に加えます。
21	P43	目標指標に他部局のものだが、「猿島来島者数」を現状の数値として載せるのはいかがか。(渡辺委員)	猿島も「地域の歴史・文化・自然から得る学び」の一部ですが、教育委員会が実施する施策・事業と関連の強い指標を設定したいと考えていますので、掲載は見送ります。
22	P44	現状と課題の「さまざまな歴史の舞台となった背景があり、」の次に「江戸・東京に近く海に囲まれた」を加え、三浦半島の歴史、地理的役割を記載してはどうか。(渡辺委員)	「江戸・東京」とすると近世から近代以降の時間軸しか捉えていない印象となりますので、原案どおりといたします。
23	P47	現状と課題の「全国でも珍しい、独立した児童のための「児童図書館」」は、「全国でも珍しい児童のための独立した「児童図書館」とした方が読みやすく分かりやすい。(渡辺委員)	ご意見のとおり修正します。
24	P48 ・ P51 ・ P44	事業 77「図書館資料の収集、保存、提供」、事業 83「近代歴史資料・自然誌資料の収集・整理、調査・研究、保存・活用」は施策 13「文化遺産・自然遺産の活用と将来への継承」でも再掲した方が良いと思う。(渡辺委員)	図書館資料や博物館資料も文化遺産・自然遺産に該当する部分がありますが、今回の計画ではなるべく事業の再掲を少なくし、主だった場所に掲載することで体系を分かりやすくしたいと考えていますので、原案どおりにしたいと思います。
25	P48	図書館の文庫活動団体への配本等は事業説明の中に入れられないか。(渡辺委員)	図書館の文庫活動団体への配本等は、全市域にわたって提供する図書館サービスのうちのひとつと捉えており、事業説明は原案どおりといたします。
26	P53	現状と課題の「小学校 6 年生美術鑑賞会などを行い」は「小学校 6 年生美術鑑賞会や児童生徒造形作品展などを行い」とし、	ご指摘のとおり修正します。

		学校との連携で実施している事例を示してはどうか。(渡辺委員)	
27	P54	事業 91「福祉活動の充実」とあるが、「福祉」ではなく「福祉活動」としていることに違和感がある。これは単なるおまけ的な要素ではなく、利用がしづらい人に向けたアクセスの向上であったりアウトリーチであったり、そのようなことではないか。(梨本委員)	<p>ここでは、教育普及活動の一環という意味で「福祉活動」という表現を用いています。本「活動」には、アクセシビリティの向上をはじめとした美術館全体の取り組みとともに、障害をお持ちの方に向けたワークショップや鑑賞会など、積極的な働きかけや開催事業が含まれています。</p> <p>そのため、「福祉活動」として進めたいと考えます。</p>
28	P53	事業 91 に「創作と鑑賞を支援する」とあるが「創作」ではなく「制作」ではないのか。(梨本委員)	<p>「創作」は、ここでは、「制作」よりも幅広いニュアンス、たとえばモノを作り出すだけでなく、なにかを想像したり、ゼロから何かを生み出したりすることを含むニュアンスで使っています。</p> <p>このニュアンスをより明確に示すために、「創作と鑑賞を支援する多様なプログラム」ではなく「創作や鑑賞を支援する多様なプログラム」と修正します。</p>
29	P54	事業 91 の「対話鑑賞」は「対話型鑑賞」ではないか。(梨本委員)	<p>狭義の「対話型鑑賞」とは、知識偏重の鑑賞教育への反省から生まれたもので、1980年代のアメリカで始まった実践例が広く知られ、知識を介さずに鑑賞者の観察力や思考力、コミュニケーション能力を育成することを目的としています。一方で、横須賀美術館としては、美術作品に関する知識や情報もある程度、鑑賞者へ伝えていくべきではないかという考えから、「対話型鑑賞」ではなく、「対話鑑賞」という用語を用いています。</p> <p>東京国立近代美術館も、同様の理由から、館独自の鑑賞プログラムとして「対話鑑賞」という用語を使用しています。</p> <p>なお、対話を取り入れた鑑賞を指す語は、「対話型鑑賞」「対話鑑賞」「対話による鑑賞」など複数見られ、概念自体が未だ定まっていない印象もあります。ただし、「対話型鑑賞」は、上記のような狭義の意味合いで使われる</p>

			<p>こともあるため、横須賀美術館で積極的にには使用していません。</p> <p>そのため、「対話鑑賞」として進めたいと考えます。</p>
30	P54	<p>事業 91 の触察教材や音声ガイドは視覚障害者への対応だと思いが、聴覚障害者への手話など、視覚障害者以外のことを入れていただけると良いのではないか。(梨本委員)</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「触察教材、音声ガイド、手話通訳等」に修正いたします。</p>
31	P58	<p>事業 100 の通学路の安全確保には、危険箇所の把握も加えてほしい。がけ崩れ、倒木、よく相談を持ち掛けられ、切実である。(櫻井委員)</p>	<p>市立小学校から年 1 回危険箇所の報告を受け、道路管理者、警察署等と連携し合同点検を行っており、危険箇所の把握をし、対策を検討しております。</p> <p>そのため、「通学路の交通安全の確保のため、市立小学校から報告を受けた危険箇所等について、道路管理者、警察署などの関係機関との連携や協力を図り、合同点検などを実施します。」に修正します。</p>
32	P58	<p>小規模校の発達における影響を記載して、深刻であるということ伝える必要があるのではないか。(渡辺委員)</p>	<p>ご指摘の影響については、「現状と課題」の中で、人間関係面、指導面、学校運営面等にわたって望ましくない状況として触れていますので、原案どおりといたします。</p>
33	P61	<p>施策 17 について、子どもに情報モラルや情報セキュリティの重要性を認識してもらうためには、学校だけでなく家庭の協力も必要だと思う。情報モラルや情報セキュリティについてのリーフレットを作成して家庭に配布するなど、保護者の情報モラルや情報セキュリティへの意識を高め、家庭においても ICT 環境・機器を適切に運用してもらう必要があると思う。施策 17 の内容に追加しなくても良いが、家庭においても ICT 環境・機器を適切に運用してもらうための取り組み、事業の追加について検討いただきたい。(教育委員・元木委員)</p>	<p>ご指摘のとおり、子どもに情報モラルや情報セキュリティの重要性を認識してもらうために、家庭の協力を得る取り組みを実施いたしますので、施策 17 に事業 106 として「情報モラルや情報セキュリティに対する意識の向上」を加えます。</p>
34	P62	<p>事業 109 は、「輝け！よこすかの子どもたち」の発行頻度が書いてあると分かりやすい。(小野寺委員)</p>	<p>少し細かい内容となるため、施策としての記載内容は現行どおりとし、実際の周知の中で工夫いたします。</p>

35	P64	<p>施策19「経済的理由に左右されない学びの機会均等」について、就学援助費が確実にその支給目的に使用されるように支援実行していただくことを望む。(岡本委員)</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
36	P70	<p>各事業は客観的な根拠に基づいて評価していくことになると思うが、柱に掲げている目標指標で評価するのか。それとも、事業ごとに指標を設定するのか。いずれにしても、客観的な根拠に基づくPDCAサイクルの確立を促進するのであれば、柱に掲げている目標指標と各事業との関連を明確にした方が良いと思う。(例)各事業の記載項目に、関連する目標指標番号を追加するなど。(教育委員・元木委員)</p>	<p>教育振興基本計画では、柱ごとに代表的な目標指標を掲げ、その柱の各施策(各事業)全体をその指標で評価するという考え方で</p> <p>そのため、目標指標と各事業との関連を明確にすることは難しい(特に施策1の各事業では、ほぼ全ての事業を関連付けることになる)と考えています。</p>